

千年の森便り No.210

2021.01.21

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

年明け後、初めての活動日なので互いに「新年おめでとうございます。」と例年通りの挨拶を交わしましたが、コロナの緊急事態発令下ではマスク越しでした。

島に入って先ずやることは祠山での安全祈願です。久我さんご調達の山形県天童の銘酒「出羽桜」を供えて山での安全と会の発展を祈りました。コロナに感染しないのは勿論、事故や怪我なく活動出来れば会の目的は半分以上達成できたと思っていますので、皆様宜しくお願い致します。



参加者は、秋元、伊藤、色川、大原、久我夫妻、坂本、砂押、成沢、福島の10名でした。（坂本）

コナラ伐採地の刈り出し（その1）

豊英島の平坦部分はほとんどが50年生を超えたコナラ林となっています。このコナラ林は、かつては薪炭等に利用され、20年程度の周期で伐採され利用されていたと思われませんが、現在はそのような伐採は行われておらず、次第に大径木化、高齢林化しつつあります。

会では、森林の若返りを図るとともに、皆伐後に森がどのように変化していくかを実際に見てみることを目的に、2014年に千年広場近くのコナラ林500㎡を伐採しました。また、同時にニホンジカの食害から植生を保護するために、伐採地の周囲を植生保護柵（ネット）で囲みました。

伐採後、一時的に草本植物が増え、木本植物を合わせて177種が記録されましたが、現在は、木本植物の成長とともに草本植物が減少する傾向にあります。そこで、今後の森づくりについて会で検討を行い、南東側半分は草本植物を主体とする草原的な植生を維持することとし、北西側半分は手を加えながら森林を再生することとしました。

今回の活動では、森林を再生する部分について今後残す木を決め、それ以外の木を刈り払う「刈り出し」という作業の一部を行いました。残す木としては、コナラのほか萌芽更新しているサクラ類、カエデ類など、多様な森にするために種数を多く選びました。また、アカメガシワ、カラスザンショウなどの先駆樹種、人工林の樹種であるスギ、ヒノキ、繁茂しているクロモジは刈り払う対象としました。

森林の管理は試行錯誤の繰り返しです。今回行った刈り出しの結果をみんなで確認し、どんな森にしていくか会で方向を相談しながら森づくりを進めて行くことができれば良いと思っています。（福島）



コナラ伐採地の刈り出し作業

○新しいセンサーカメラの設置と撮影記録

12月13日にセンサーカメラ設置のため、虫やヘビの苦手な妻に協力を求め島に入りました。先週と同様穏やかな日で、紅葉を楽しむのにはもってこいの日でした。豊英島の活動の楽しみを理解してもらったいい機会になりました。1号機は吊橋付近の斜面に設置するため支柱を組み立てる必要がありました。農地にタラノキの支柱と



センサーカメラ1号機



センサーカメラ2号機

して用いていたものが野生動物の食害に遭い不必要となっていましたので、これを取り外し吊橋接岸部の撮影するポイント（吊橋端から5mに位置）に使用しました。2号機はホコラ山の裾に1号機よりも広範囲が撮影できるように設定を変えて設置しました。

センサーカメラの主な設定

機番号	撮影形式	静止画解像度	連続撮影枚数	動画解像度	動画撮影時間	撮影間隔	フラッシュモード
1号機	静止画 +動画	3M Pixel	3枚	1280 ×720	10秒	10秒	低照度
2号機	静止画 +動画	3M Pixel	3枚	1280 ×720	10秒	10秒	長距離照度

貴重な写真が撮れました。

12月26日に吊橋付近で授乳する親子、1月14日には霧の中でシカの群れ5頭の姿が確認できました。

1月6日の動画には二ホンイタチ？が口に子どもなのか獲物なのか不明ですが何かを銜えている画像がありました。（秋元）



12月26日授乳中の二ホンジカ親子



1月14日 霧の中の二ホンジカの群れ



12月14日アライグマ

センサーカメラの記録画像の多くは動画ですが、この紙面には動画の掲載が出来ないので、静止画のいくつかを掲載します。霧の中や夜間の撮影が多く、画像が不鮮明ですがご容赦ください。

センサーカメラの動画の中からいくつかを選んで、近いうちに何らかの方法（Facebookにアップ、ホームページにアップ、直接送信など）でお届けできるよう努めますので、是非ご覧ください。



1月6日 何かを銜えた二ホンイタチ？

センサーカメラの撮影動物

CAM 1: 吊橋付近

CAM 2 : ホコラ山下

年	月	撮影日時			気温 ℃	動物名	カメラ番号	記事
		日	時	分				
2020	12	14	20	: 8	7	不明	CAM 1	
		14	22	: 26	6	アライグマ	CAM 1	
		20	6	: 38	1	ニホンジカ	CAM 2	
		24	16	: 30	13	ニホンジカ	CAM 2	
		26	15	: 41~53	13~15	ニホンジカ	CAM 1	親子 2 頭 授乳
		29	15	: 48	16	不明	CAM 1	空中に影
		30	0	: 38	8	ニホンジカ	CAM 2	2 頭
		30	17	: 3	11	ニホンジカ	CAM 2	
		31	0	: 55	3	不明	CAM 1	
2021	1	1	20	: 3	2	不明	CAM 1	
		3	8	: 17~34	0	ニホンジカ	CAM 1	3 頭
		4	9	: 35~55	7~13	ニホンジカ	CAM 1	2 頭
		5	8	: 34~37	3	ニホンジカ	CAM 1	霧の中
		5	0	: 50	0	ニホンジカ	CAM 2	
		5	15	: 44	8	ニホンジカ	CAM 1	
		6	1 : 58 から 2 : 7 まで	3	不明	CAM 1		
		7	1	: 9	3	不明	CAM 1	
		8	3	: 56	0	不明	CAM 1	
		9	2	: 30	1	不明	CAM 1	
		10	20	: 55	2	不明	CAM 1	
		14	6	: 57	0	ニホンジカ	CAM 2	5 頭 霧の中
		15	21	: 21	7	不明	CAM 1	
		16	23	: 16~21	7	不明	CAM 1	

○台風被害木の処理

新年初めての作業なので、全員でホコラ山に安全祈願をしました。その際、周辺に倒木が散乱しているのが見受けられたので、今回は、ホコラ山の周りの倒木を処理しました。チェーンソーで切断したのを伊藤さん、家内則子の応援で作業が出来ました。

林内には、未だ多くの未処理の倒木があります、今後もこの作業を続ける予定です。(久我)



台風被害木の処理

○ダム湖減水

南房総では少雨の影響でダムの貯水率が下がり断水の瀬戸際にある地域があります。

豊英湖も冬には珍しく水位が1mほど下がっていました。これだけの減水でも傾斜のなだらかなホテイ岬の先端では湖底が広く現れて干潟状になっていました。柔らかな土の上には沢山のシカの足跡があり、ここから頻りに上陸しているのが分かります。

ダム湖が出来た時水没した樹木の株は約50年経過した今もオブジェのように残っていて、減水の時だけ見られます。

ホテイ岬からは水面に鴨2種（キンクロハジロ、ホシハジロ）とオオバンが見えました。（坂本）



湖底が干潟状に現れたホテイ岬先端



これ何の骨？

ホテイ岬からの帰路で秋元さんが地中に半分埋もれた何かの頭蓋骨を見つけました。人骨に似ていますが、大人の掌の半分にも満たないサイズですから、素人考えではニホンザルの幼獣かと思います。現物は広場のテーブル上に安置して有りますので、詳しく調べられる方は持ち帰って調査して下さい。調査後はねんごろな供養もお願いします。古典落語の「野ざらし」の様な事があるかも知れません。（坂本）

初参加の感想

千葉県森林課 砂押里佐

今回、成澤さんのご紹介で初めて参加させて頂きました。豊英島に入ること自体もちろん初めてで、ダム湖に囲まれた秘境の島にわくわくして臨みました。

島を一周案内いただいたのですが、尾根あり、岬あり、水辺あり、小さな島の中でも地形が富んでいて、大変面白かったです。島の中では、皆さんが元々の植生を活かしながら、ヒメコマツ等を植栽したり、竹林を整備したり、シカ柵で植生保護をしたり、これまで整備されてきた歴史を感じられ、楽しく歩かせていただきました。

また、初めて行った「刈り出し」は、これからの遷移を方向付ける重要な作業ということで、とても貴重な経験ができました。「刈り出し」の前に、今後残す木を少し選ばせて頂いたのですが、その際、落葉した樹木をなんとか同定しようとして冬芽や樹皮をじっくり観察したことが、思いのほか楽しかったです。

活動を通して、島の自然や生き物を十分に楽しむことができ、充実した一日を過ごさせて頂きました。また是非、参加させて頂いただければと思います。

お知らせ

○次回活動日は2月21日（日）です。

冬の最盛期ですが、そこかしこの春の兆しを感じてください。

全体作業は、照度調査、ギャップ林の刈出し作業がメインです。刈り出し作業はなかなか経験する機会が無いので、是非参加してください。

9時30分に清和自然休養村（直売所）集合です。ヘルメットをお忘れなく。